

UAE（ドバイ、アブダビ、シャルジャ） 視察報告

都市整備局、政策企画局

～ドバッとイってきた～



視察概要

●日程 令和4年3月27日（日）～4月1日（金）

●主な訪問先 UAE政府AI担当大臣、在アラブ首長国連邦日本国大使館、ドバイ国際博覧会、未来博物館、等

●出張者

副知事 宮坂学

都市整備局 まちづくり調整担当部長

都市整備局 都市づくり政策部 開発計画推進担当課長

都市整備局 都市づくり政策部 築地まちづくり調整担当課長

政策企画局 計画部 東京eSGプロジェクト推進担当課長

政策企画局 計画部 計画課課長代理（東京eSGプロジェクト推進担当）

●視察目的

- 東京都が進める、海と緑の環境に調和したサステナブルな次世代都市の実現に向けて、デジタルと先端技術の実装、質の高い緑と魅力ある水辺空間の形成、にぎわい・交流・イノベーションを生むまちの実現などの観点から、海外都市の先進事例を視察するとともに、現地担当者との意見交換を行う。
- また、海外発信の最新事例を調査するため、世界各国のデジタル技術や次世代モビリティなど最先端テクノロジーが集結する「2020年ドバイ国際博覧会」などを視察するとともに、現地担当者との意見交換を行う。

視察で学び得たこと

ドバイ首長国等における市内視察により、デジタルと先端技術の実装、魅力ある水辺空間の形成、にぎわい・交流・イノベーションの創出等について、下記のとおり、今後の都市づくりの参考となる具体的な事例を確認した。

- **都市の至る所にデザインの力があり、ひとを魅了し、訪れたいと思うまちを形成**
- **グリーンとウォーターは常に都市空間とセットで、空間の魅力に最大限活用**
- **まちのアイコンとなる建築物が多数存在し、それらが周辺と一体となることで街の価値を最大化**
- **有能な若い人材やスタートアップなど、世界の才能と投資を呼び込むことへの徹底した注力**
- **住民のQOL向上のためにデジタルを最大限活用**

また、UAE政府AI担当大臣との会談などにより、世界から人と投資を呼び込み、発展を遂げているドバイ首長国の都市づくりへの理解を深めるとともに、まちづくりに携わる関係者との交流を深めた。

「2020ドバイ国際博覧会」では、世界規模で人やアイデアをつなぎ、より良い世界を実現する海外発信の最新事例として関係者と意見交換を行い、理解を深めた。

視察都市、視察箇所（全体）

ドバイ首長国

石油資源に依存しない経済政策を進め、7首長国のうち飛び抜けた発展を遂げた大都市

人口の8～9割が外国人

海岸線には天然の運河・良港を有しており、100年程前から湾岸の商業の中心地として繁栄

面積 4,110 km²（≒徳島県）

シャルジャ首長国

ドバイと同様石油埋蔵量が少なく、工業と観光資源に依存
厳格な服装規定が導入されるなど伝統的なイスラームの価値観が色濃く残る

面積 2,590km²

アブダビ首長国

1966年以降、本格的に石油開発が開始され、中東でも屈指の近代都市に発展。

アラブ首長国の首都。連邦国土面積の80%以上を占める
面積 67,340 km²（≒東北地方）

そのほか基礎データ

- 人口 UAE全体：927万人、アブダビ：291万人、ドバイ：270万人
- 石油埋蔵量987億バーレル（世界第7位）（アブダビ94%、ドバイ4%、シャルジャ2%）
- UAEにとって日本は第9位の直接投資国であり、UAE最大の貿易黒字国。
- UAEへの来訪目的は、余暇目的が74%、ビジネス目的が26%。

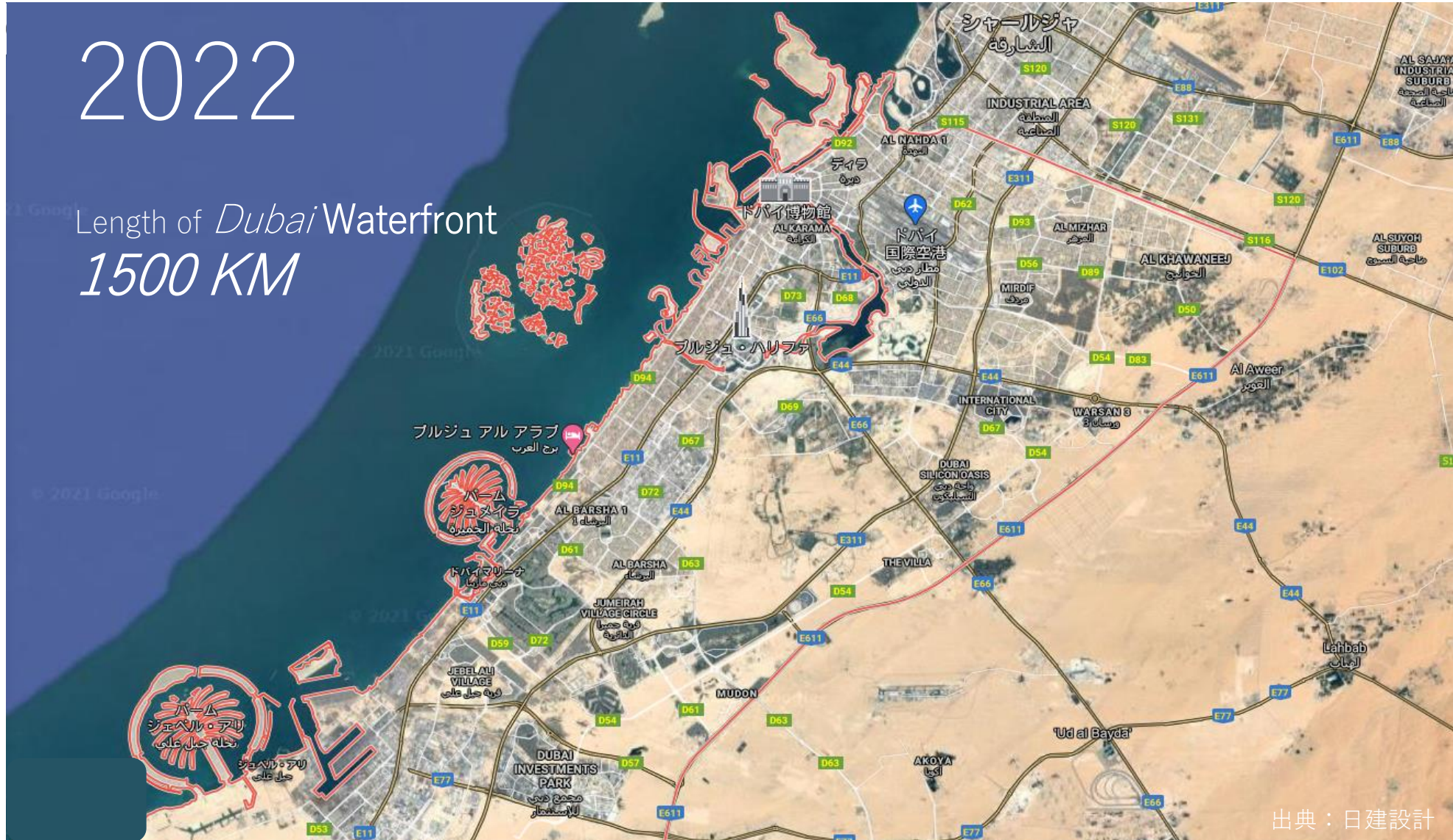
視察都市（ドバイについて）

- ほぼゼロベースからまちづくりに着手し、約10年で急速な発展を遂げた
- 特に水辺開発に注力している。「水辺が無ければ造ろう」という思想



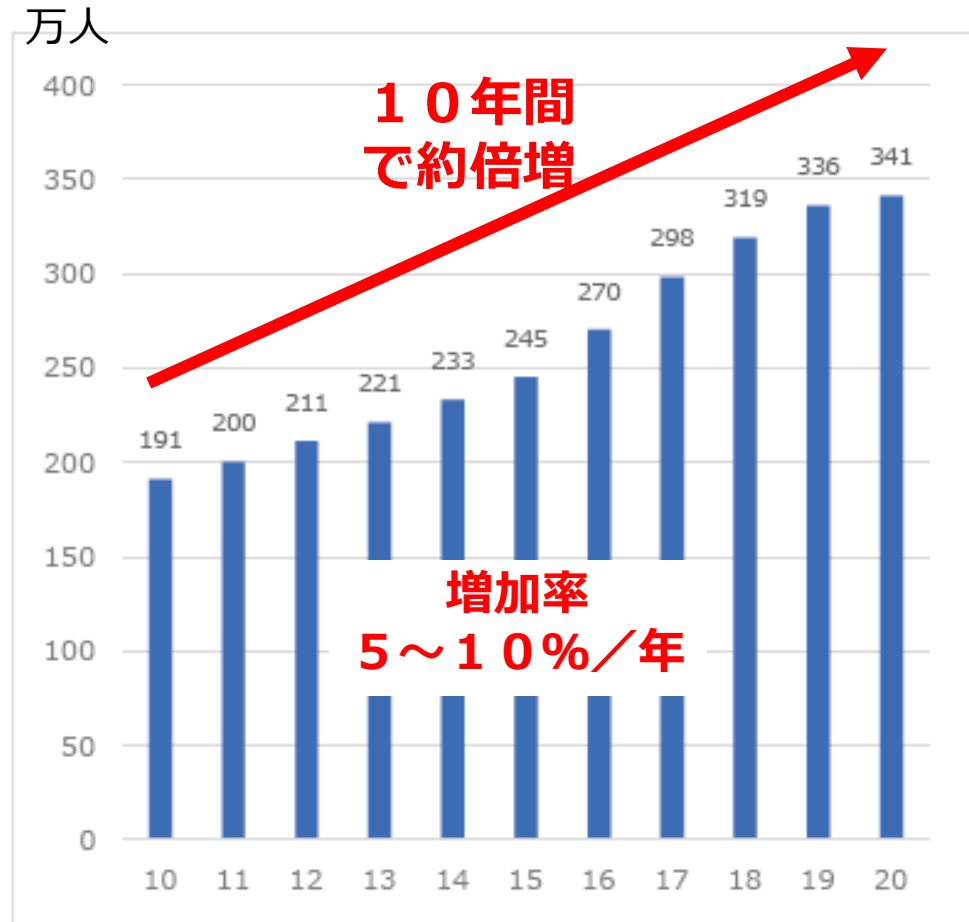
視察都市（ドバイについて）

- 2022年時点の水辺総延長は1500 k m（2002時点：70km）

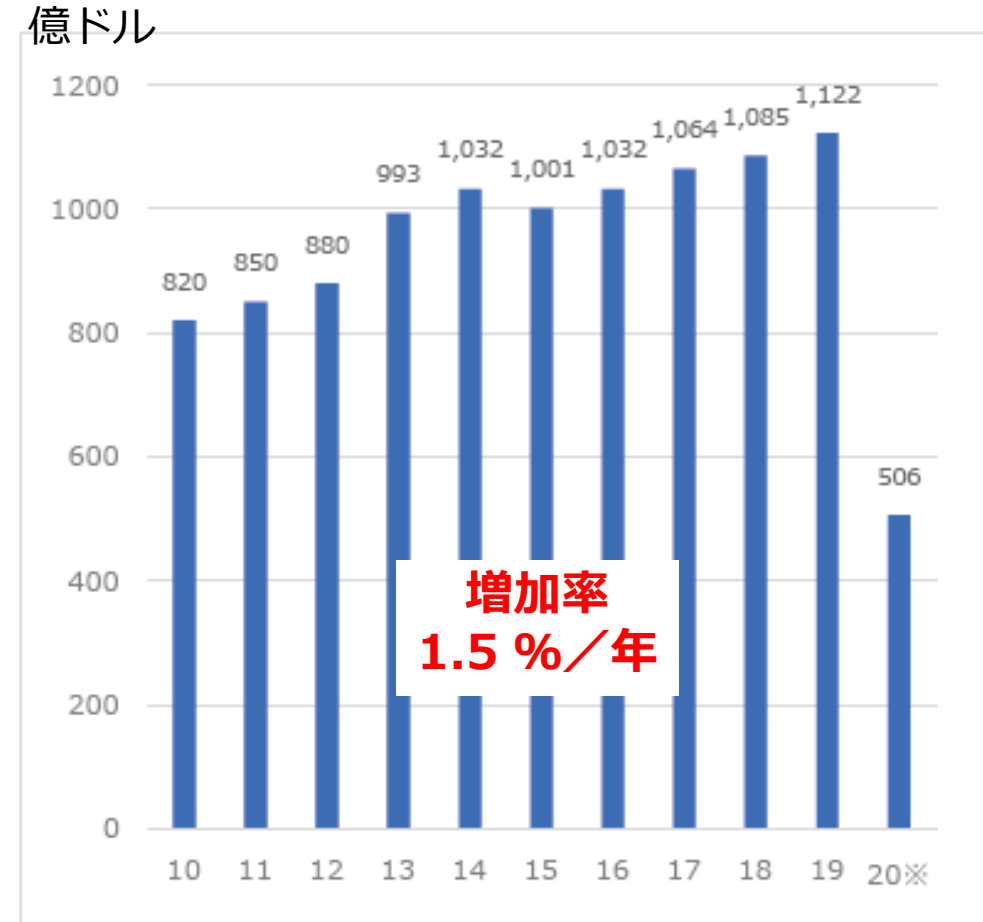


視察都市（ドバイについて）

- 人口の約9割が外国人であり、ダイバーシティに富む。政府にも外国人が多数
- オイルマネーに依存しない成長を急激に遂げた都市



ドバイの人口推移 2010~2020



ドバイのGDP推移 2010~2020

主な面会先との意見交換

オマール スルタン アルオラマ
UAE政府

AI, Digital Economy,
Remote Work Application 大臣

- 主なディスカッションテーマ
- UAE、ドバイのテクノロジー活用
 - スタートアップの集積



2020年ドバイ国際博覧会日本政府代表中村氏

- 主なディスカッションテーマ
- 展示の基本コンセプト



在アラブ首長国連邦日本国大使館
磯俣 特命全権大使

- 主なディスカッションテーマ
- UAEの都市事情
 - 日本とUAEの関係性



スウェーデンパビリオン

Mr. Jan: Commissioner General及び

Ms. Marie Eck: Pavilion Director

- 主なディスカッションテーマ
- スウェーデンパビリオンの環境発信



スタートアップの状況（ドバイ）

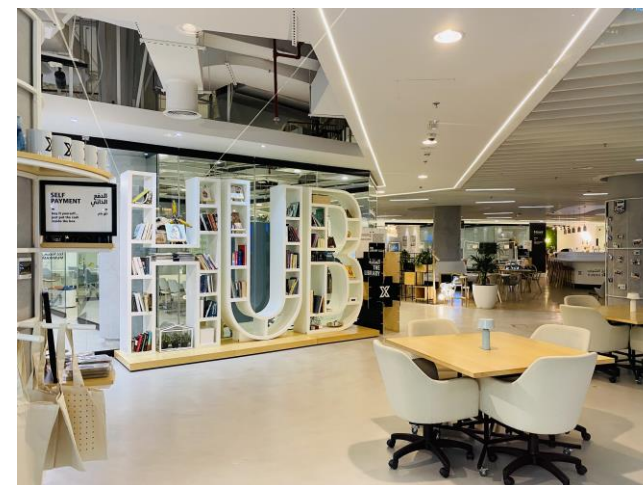
- ドバイ国際フリーゾーン（DIFZ）では、法人税・個人所得税がゼロ、外資100%
- スタートアップ企業は国の全登録企業数の50%を構成し、労働人口の半数を雇用



ドバイ中心部の金融センタービル
(地上階に政府施設、SUが集まる)



政府の施設と隣接したスタートアップのコワーキングオフィス専用オフィス



ドバイ政府アクセラレーター部門オフィス



デジタルパネルによるドバイ政府のイノベーション取組の紹介

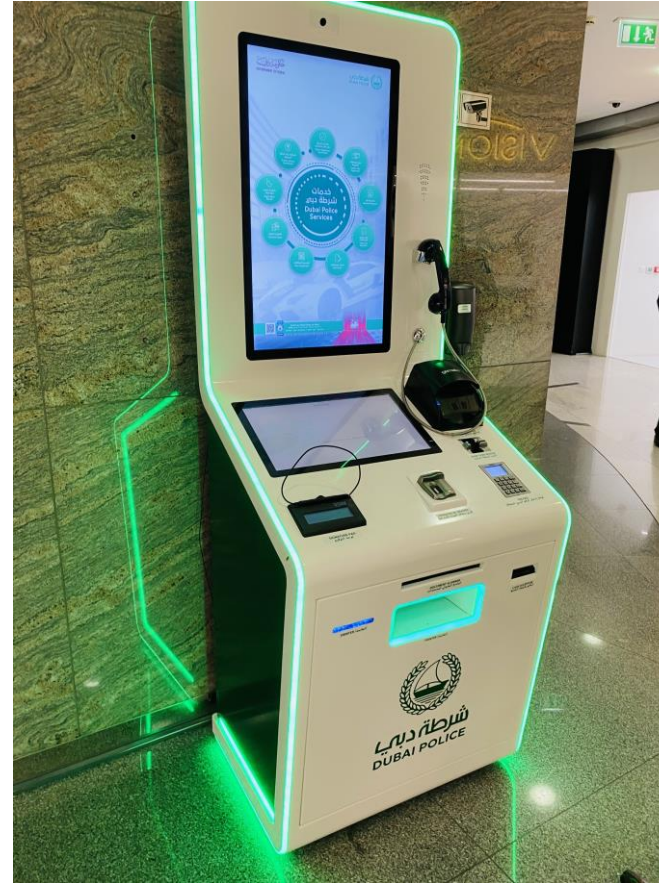


街なかにおけるデジタル技術の活用

- 街中におけるキャッシュレスの徹底。紙ベースのポスターは皆無
- あらゆる場所でデジタルサイネージやデジタル活用端末などが整備



店舗のサイネージ
(金融センター)



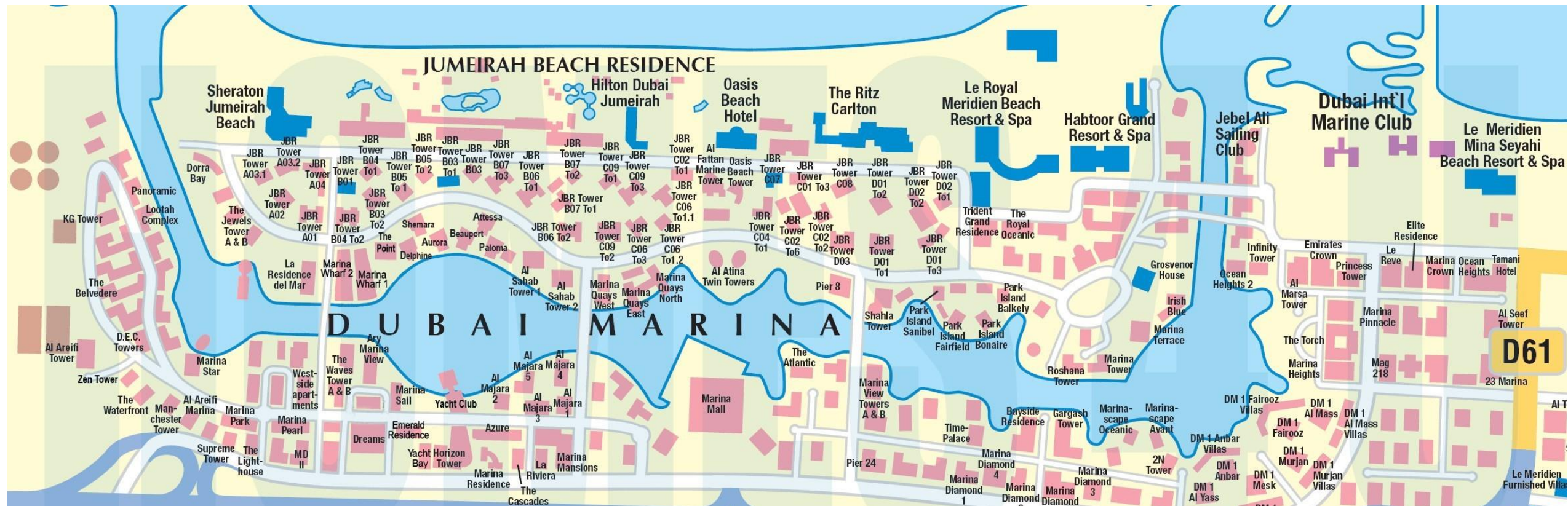
デジタルポリス端末



道路上空のデジタルサイネージ

水辺のまちづくりの例（ドバイマリーナ）

- 2003年に建設を開始した人工的な運河のまち。開発面積490ha
- 運河の水辺空間を曲線的につくることで、「水辺エリアの拡大」「水辺に接する建物の増加」「変化に富んだ歩行者空間の整備」「船舶停泊エリアの拡大」など、多様な価値をエリアに付加



出典：maps-dubai.com

水辺のまちづくりの例（ドバイマリーナ）

- 道路を水辺から奥側に整備することで、水辺沿いに人中心の空間を連続して確保



ビーチ沿いの歩行者空間、店舗



昼も夜も多くの観光客でにぎわう

都市のアイコンとなる建築物（未来博物館）



- 「世界で最も美しい建築物」をうたう。楕円形の7階建て。デザイン性が高いドバイ建築物の中でも、ひととき異彩を放つ
- 50年後（2071年、連邦建国100年）の人類の暮らしをテーマにしたミュージアム
- 未来において「日常」となっている宇宙がメインテーマ。UAE政府は100年先の未来を見据えるとともに、国威発揚・技術開発のため宇宙開発に注力。2117年までに火星に人類初の都市を建設する計画

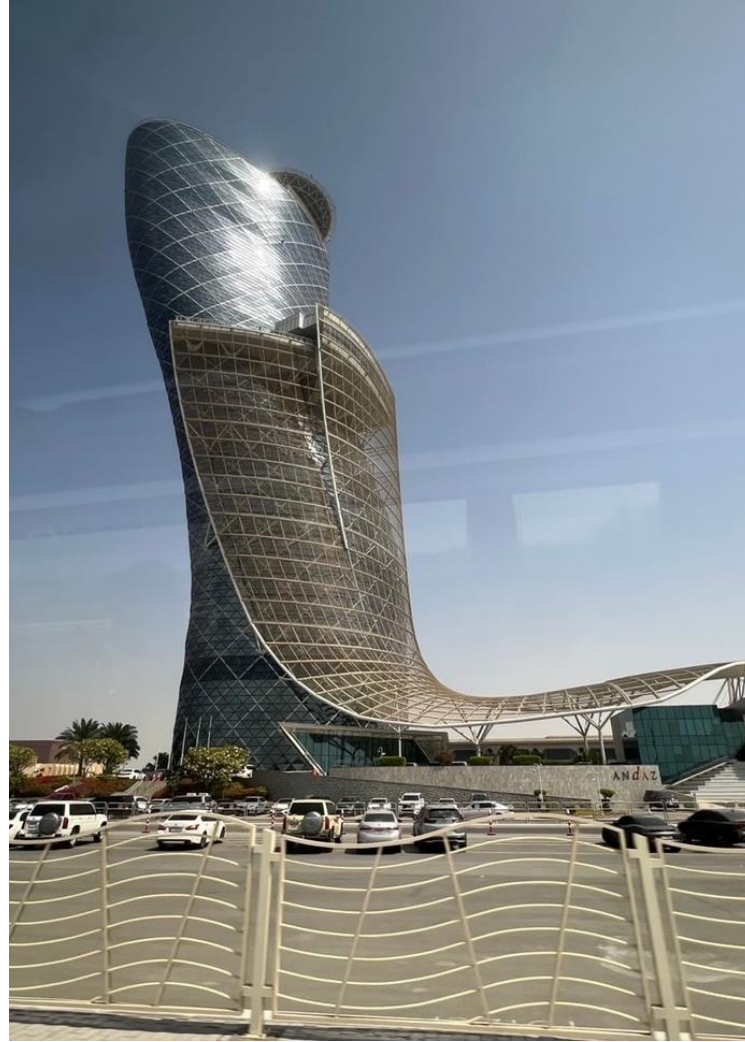


50年後のドバイのイメージムービー

都市のアイコンとなる建築物



Royal Atlantis Resort & Residences



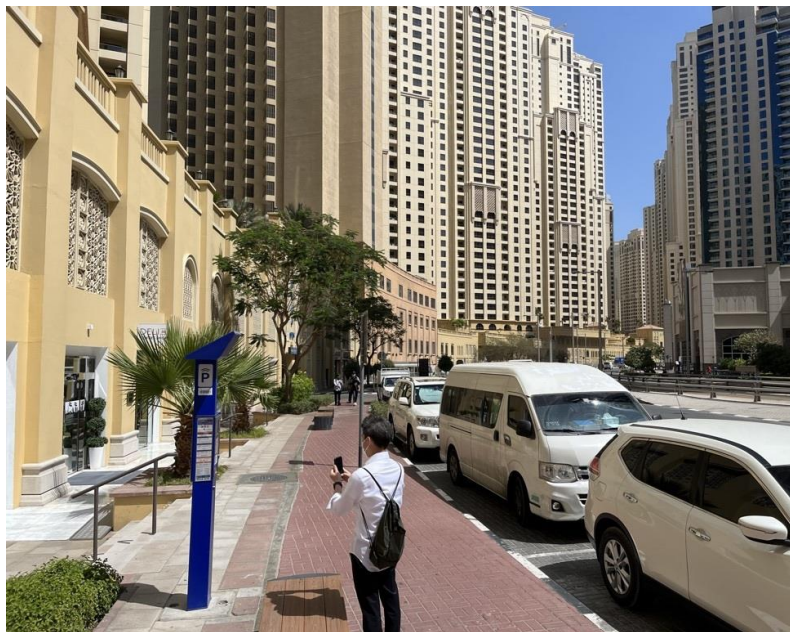
アンダーズ キャピタルゲート



One Za'abeel
(80mの張り出し展望台を持つツインタワー)
※建築中

様々な顔を持つ都市（電線・電柱のない街並み）

- オールドタウン及びニュータウンのすべての街が無電柱化済み
- 鉄道やトラムは景観に配慮し、電柱・架線レス



無電柱化された街並み



架線のないトラム



架線のない鉄道

国際的な発信（万博）

- 「心つなぎ、未来を創る」がテーマ。世界規模で人やアイデアをつなぎ、より良い世界を実現
- 機会、モビリティ、サステナビリティ 3つのサブテーマ
- 展示会場面積 約100ha（≒ ディズニーランド + ディズニーシー）。192か国のパビリオン



国際的な発信（万博） 日本館

- 「Where ideas meet アイディアの出会い」をテーマに、日本の様々なコンテンツ（伝統文化、アニメ、食など）を最新のテクノロジーで魅せる展示
- 来場者は各ゾーンを進みながら、「多様な出会いを大切にすることで、新しいアイデアが生まれ、交流し、未来がよりよい方向に変わりゆくこと」を体感し、最後に「大阪・関西万博」へとつなぐ
- ウォークスルー方式ではなくガイドツアー方式



永山祐子氏設計の建物
※「3次元の折り紙」を表現



日本館に併設されたスシロー



大阪万博のPRコーナー

博覧会国際事務局（B I E）は30日夜（日本時間31日未明）、アラブ首長国連邦（U A E）で開催中のドバイ万博に出展されたパビリオンのうち、日本政府の「日本館」が展示部門で金賞を受賞したと発表した。【産経新聞】

国際的な発信（万博）

暑さ対策



会場の主要通路には日除けを設置

テクノロジーの活用



食事の自動配送ロボット



コミュニケーション ロボット



国際的な発信（万博） 万博レガシーの活用



レガシーまちづくり「District 2020」
のショールーム



まちの紹介模型
(主要なパビリオンはレガシーとして残し、
施設として後利用。居住人口14万5千人)

アブダビの様子

- ドバイと同様、脱オイルに向けた開発を進めている。
- 水辺を取り込んだ空間づくり（ルーブル美術館）
- 観光や芸術文化の発信に注力しており、広大な国土を活かした今後の発展が期待



ルーブル美術館「光の魔術師」ジャン・ヌーベルによる設計



出典：we build value



ルーブル美術館の隣に新たな文化施設を建設（グッゲンハイム美術館）



出典：futuro prossimo



都市の顔となるデザイン性の高いインフラ
(シェイク・ザイド橋) ザハ・ハディド設計

シャルジャの様子

- 水辺ににぎわい施設や商業施設を配置しているドバイと比べ閑散としている印象
- ドバイへのベッドタウンとして機能



ハリッドラグーン

湖沿いに商業施設がなくドバイマリーナのような賑わいは少ない



ハウスオブウィズダム（図書館）

世界的建築家ノーマンフォスター設計（アップル本社など）

